

## 家庭教育シリーズ

最近は、叱り下手や、見当違いのほめ方をするお母さんが増えています。

2～3の事例を紹介します。

おねしょをした子どもをよく叱るお母さんがいます。子どもは自分からおねしょをしたくてしているわけではありません。だから叱つても効果がないばかりか、子どもを萎縮させるだけです。

「おねしょを直したいと思うのなら、しなかつた時にほめてあげて自信を持せる方が効力だと思います。『今日は偉かったね』しないと気持ちが良いでしょ』くらいの語りかけが良いのです。

又小学二年生の子を見て、「おりこうね、お顔を一人で洗えるの偉いわねとほめた」そのことは悪い事ではないが、一人で顔を洗えることをほめるのが適当なのは幼児期（二～四才）まででしょう。次に、木登りをしている子

におばあちゃんが、「まあまあ、元気がいいね、頑張てもっと高い所まで登つてごらん」と声を掛けた。子どもは得意で、期待に応えようとしてアタックの開始です。そこへ、お母さんの声、「なにしているの、そんなことちや危ないでしょ、早く降りなさい」これでは、子どもは大混乱してしまいます。

子どもが小さいちは、ほめながら、生活の基本的習慣を身につけさせようとすることです。このためにも次の様なことに注意してください。

(一)子どもの素質的なものは、

度は、もう少しむずかしいこともやれるネエ」と、次の経験を求めて努力し、進歩してゆくように、新たな動機づけとなっているところに意味があります。ただ結果だけではなくてはいけません。

そこで、ほめる時は「心からほめる」態度のなかに、母親としての人間的愛情が現われてこなければならないのです。このためにも次の様なことを気にかけてください。

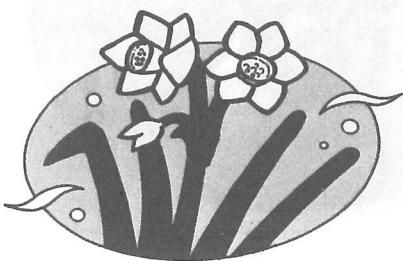
(一)知能の程度を考えること。知能の高い子どもであれば叱り方が激励になつていてはいけません。

内向的な、神経質的な子どもは、叱るよりもほめた方が良い。どうしても時は、静かにほめることです。このためには、親としては、ほめる材料をさがし得ることが出来ないところに、しつけをむずかしくさせているように思われてなりません。

しかし、親としては、ほめる努力をしないで、気軽に叱つているようです。心から本当にほめることのできるお母さんになりたいものです。

## ほめることのむずかしさ

家庭教育指導員  
大木國臣



ように与えれば良いというも

のではないのです。次のよう

な教育的配慮をすることが必

要です。

もの「愛情欲求」をかなえる

ことのできるお母さんは、す

ばらしいお母さんです。とかく叱る言葉が多いが、ほめ言葉は少ないようです。

度は、もう少しむずかしいこ

ともやれるネエ」と、次の経

験を求めて努力し、進歩して

ゆくように、新たな動機づけ

となつているところに意味が

あります。ただ結果だけでは

めでてはいけません。

そこで、ほめる時は「心からほめる」態度のなかに、母親としての人間的愛情が現われてこなければならないのです。このためにも次の様なことを気にかけてください。

(一)知能の程度を考えること。知能の高い子どもであれば叱り方が激励になつていてはいけません。

内向的な、神経質的な子どもは、叱るよりもほめた方が良い。どうしても時は、静かにほめることです。このためには、親としては、ほめる材料をさがし得ることが出来ないところに、しつけをむずかしくさせているように思われてなりません。

しかし、親としては、ほめる努力をしないで、気軽に叱つているようです。心から本当にほめることのできるお母さんになりたいものです。

るようになります。

「ほめられたい」という子ど

もの「愛情欲求」をかなえる

ことのできるお母さんは、す

ばらしいお母さんです。とか

く叱る言葉が多いが、ほめ言葉は少ないようです。

度は、もう少しむずかしいこ

ともやれるネエ」と、次の経

験を求めて努力し、進歩して

ゆくように、新たな動機づけ

となつているところに意味が

あります。ただ結果だけでは

めでてはいけません。

そこで、ほめる時は「心からほめる」態度のなかに、母親としての人間的愛情が現われてこなければならないのです。このためにも次の様なことを気にかけてください。

(一)知能の程度を考えること。知能の高い子どもであれば叱り方が激励になつていてはいけません。

内向的な、神経質的な子どもは、叱るよりもほめた方が良い。どうしても時は、静かにほめることです。このためには、親としては、ほめる材料をさがし得ることが出来ないところに、しつけをむずかしくさせているように思われてなりません。

しかし、親としては、ほめる努力をしないで、気軽に叱つているようです。心から本当にほめることのできるお母さんになりたいものです。